



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2020年10月1日

10 月 第224号



<薪割り（里山の恵みを大切に）>



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	Galleryならやま	7
Monthly Repo ならやま	2	字遊字感	8
里山の今、花だより	3・4	ならやまプロジェクト	9
要注意！桜の害虫	5	行事予告	10
私のふるさと	6	幹事会報告・編集後記	11



予期せぬPCR検査

会長 鈴木 末一

今年の夏は例年にない異常気象である。梅雨前線が7月末ごろまで列島に居座ったかと思うと、8月になれば真夏日や猛暑日の連続。気象庁は「危険な暑さ」とまで言う。

草刈り作業が大変だ。作物たちは酷暑に耐えて成長する。1週間も間隔を空けると、畑や水田の周りの草も伸びに伸びる。連日、早朝のできるかぎり涼しい時間帯に出かけた。

そこへ、町の農家組合の出会い(水利当番)が、16日に当たっていた。ウワナベ古墳の池から2人で担当区域の水田に給水する。暑さ対策と水分補給には充分に心がけ、午前6時ごろから正午まで取り組んだ。当日も猛暑日だった。

ならやまで草刈り中に携帯電話。家から数キロ離れた在所で、耕作している水田の水が溢れているとのこと。すぐに現地へと向かう。水の処理をして帰宅。シャワーをして休息をとる。

実はここまでが、思いもよらぬPCR検査体験の前段階だ。新型コロナウイルスは、誰が感染してもおかしくない。ご参考までに続ける。

◇ 味覚や嗅覚に異常はない

◇ 2～3日後体が少し熱っぽい。体温計も微熱を示す。「熱気が体内にこもったのだろう」と思っていたが下がる気配がない。ちょうど週明けの月曜日が定期検診日だ。かかり付け医で、ここ数日の経緯を説明する。胸部X線検査を受診すると、少し影が映っているとのこと。小学校4年生の時に肋膜炎を患ったことがある。往診治療と自宅で長期の静養をし快癒した。

その体験を説明した。肋膜炎とは関係がなさそう。ごく初期の肺炎らしい。「味覚も嗅覚も異常はありません」と訴えたが、医師は「念には念をですから、保健所に連絡をとります。しばらく待っていてください」と言う。別室で待機すること30分。手続きの手順などの説明を受ける。微熱、肺炎、PCR検査を予想してしま

う。まさか新型コロナウイルスに感染してしまったのだろうか。不安になる。

医師はさっそう、奈良市保健所保健予防課への報告連絡の手続きを取る。「後は保健所からの連絡に従って、受診してください」とのことだ。不安ながら、今となっては指示に従うしかない。クリニックを後にして家路についた。途中で携帯がせわしく鳴る。午後2時30分に天理よろず相談所病院に“出頭”し、「接触外来」の診察を受けるように、との指示だ。

◇ 見慣れた光景 ◇

病院の駐車場に到着、すぐに係の方に連絡をとる。係員の方が来られ「接触外来」専用窓口へと案内された。担当医はもちろん、スタッフの看護師も全ての方々が、防護服に身を固めた厳重装備のものものしさ。TVで見慣れた光景だ。

採血、胸部CT検査、尿検査、そしてPCR検査。鼻の奥まで検査棒を差し込まれ、粘液を採取された。

その日の受診者の最初であったようだ。時間の経過とともに待合室は10数人に膨れ上がった。結果については、夕方以降になるとのこと。帰宅後、連絡の入るのが待ち遠しい。

7時過ぎに「陰性確定」との連絡。「やった!」。大きく胸をなで下ろす。とはいえ、初期の肺炎の治療をしなければならない。改めて翌日の指定された時間帯に呼吸器内科を受診、抗生物質の服用による治療に取り組むこととなった。

感染者との濃厚接触など身に覚えはない。しかし、一時は、「感染者数+1」になるのではないかと危惧した。命拾いした気持だ。

監督さんや部員たちと炎天下練習に汗した経験から、暑さには耐える体力と気力はあると思っていた。しかし、いつまでも若くはない。過信は禁物だということを肝に命じ、少しの体調異変にもより敏感でなければならない。「早期対応」「早期発見、早期治療」の大切さを今さらながら実感する。かかり付けのドクターに感謝の念でいっぱいである。

Monthly Repo. ならやま

徳地 恵男

8月27日(木) 活動 晴れ 71名

ならやまは3週間ぶりの活動となる。新入会員の研修期間が終わり、今日から各グループで活動する。初めに第2駐車場の冠水対策にバラスを入れて整地する。各Gからたくさんの応援のお陰で困難な仕事も手早く終わることができた。



里山Gは皆伐地区の下草刈り、エコGは赤シソの収穫、サツマイモの天地返しをする。景観GはBC周辺の草刈り、花班はシャガ園の草取り、柵の作り替えを行う。ビオ班は西池周辺の草刈り、パトGは3コースのパトロールを行い、水路工事も進めていく。果樹Gは梅の剪定、イチジクの収穫



を行う。

※ 9月3日 雨のため活動中止

9月8日(火) 臨時活動 晴れ 12名

東大寺で行われる建築学生のワークショップ

プ用の竹材の提供を県より依頼を受ける。全国の建築大学生がならやまの竹を材料に仮設建造物を出品展示すること。BC横の真竹林から径10cmの竹30本余りを切り出す。将来を担う学生たちの力になればと汗を流す。

9月10日(木) 活動 曇り 72名
近大生2名 見学者3名

先週は雨で活動が流れた。里山Gはマキ作り、竹林への架け橋改修。ユートピア班は特産林産物実験区の草刈りをする。エコGはダイコン、ミズナなど秋野菜の種まき、景観GはBC周辺の草刈り、ビオ班はザリガニの駆除、花班はハボタンの畑づくりをする。果樹班はクリ、イチジクの収穫を行う。午後景観Gらの有志が8日に引き続いて、ワークショップに参加する大学生と共に竹材の切り出し、運搬を手伝う。

9月17日(木) 活動 曇り 83名

今日から一日の活動になる。打ち合わせで道具、備品の扱いに気をつけようとの話。里山Gはマキ作りと伐採木のチップ処理、ユートピア班はマツの木の枝打ちをする。エコGはニンニクの植え付け、ナス、ピーマンの収穫と畑の後始末に忙しい。景観Gは彩の森の草刈り、花班はアダプト事業花壇の除草、ビオ班は水路の泥上げをする。パトGはコースの整備および水路移設工事。果樹Gはイチジク、クリの収穫と果樹園の草刈りを行う。



里山グループ



エコファームグループ

◆里山は楽しい所

阿部 和生

年寄りには忙しい！といったら笑われるだろうか…。加齢による病(やまい)への対処や、いつか整理しようと思っていたダンボールの数々等、あれもしなければ、これも片付けなければと気ばかり焦る忙しさが、その因かもしれない。

この「ならやま」は、そうした日常から切り離されていて里山という共通する意識を持った仲間と一緒する場所でとても貴重です。この地区の景観整備に始まり、徐々に受け持ち区域が広がりました。さらに「ナラ枯れ」という予期せぬ事態が生じ、現在ひとまずの終息を迎えています。いつしかどのグループも常に多忙という現象が現場に残されてしまったように思います。

この地区の原点は里山林整備ですが、今一度振り返って「ゆったりとした活動日・楽しむ一日」を特別に設けることができれば、多忙の中に違った楽しみや愛着が生まれるだろうと感じます。

毎週の活動日以外の日に自由参加で里山林に入り山の霊気を身体に受け、のんびりと過ごす一日を作れないだろうか？平日でも祭日でも毎月一回程度あるいは適宜に実施するのです。当日は家族や孫たちが来ることもあろう、それも可。下草を刈り、枝葉の始末、落ち葉かき等軽作業。春の芽吹き、ツツジの群生、濃緑の観察路散策、黄葉の楽しみなど季節の山の観賞。周囲の散策そして少しおしゃれな昼食とお喋りの時間。朝礼も終礼も簡素に、事前に計画して自然工作も良いかもしれない等など思い浮かびます。

この里山林の魅力を満喫することに主眼を置いた一日を設けられれば楽しいだろうな…！作業に加わらなくても散策や昼食とおしゃべりを目的に加わることもOK。

そんなゆとりを持った、山を知る、観る、触れる活動日があれば良いな……。

◆農具小屋の表札

岡田 安弘

ならやまの活動に初めて参加した2017年10月12日は小雨。朝6時44分、京阪に乗車、近鉄、奈良交通バスと乗り継ぎ、朝礼の30分前に到着。日記に詳しく書いている。

見学の8人は観察路を登る。松林に出た。若い松の木の周りで、熊手を持つ10数人が下草や小石をかき集めていた。リーダーらしき男性が、新顔の我々を見て「特用林産物に腐葉土は邪魔なんだよ」と言う。今日は面白くなりそう、わくわくしてきた。

農具小屋に案内される。戸口の上、幅1m、縦10cmほどの横板の表札に目が止まる。黒い太文字で「ECOFARM」とある。この表札が、人生のリセットボタンとなった。

▽

「ボランティアを始めたそうじゃないか。エコ班と書いているが何のこっちゃ?」。年賀状を見た友人から電話。即答できなかった。そもそもスーパーで「エコポイント」に首を傾げ、見当はつくが自信がもてないままだった。

世の中、「エコ」があふれている。とうとうパソコンの世話になった。検索すると、「エコ」は接頭語。環境に配慮する全ての事柄の帽子のようなもの。エコノミーのエコはギリシャ語のオイコス(家)、ノミーはノモス(管理)。合わせて「家計のやりくり」。これが「経済学」となる。エコロジー(生態学)もしかり。「環境」と「学」の合体だった。

「経済」と「環境」。こじつけではない。環境を守って、経済が衰えては元も子もない。環境に配慮し、なおかつ経済を発展させることが望ましい。これが難しい。近年の環境破壊に、経済活動が絡んでいるのは明白。「1万2千歳の経験と知恵」で、どうにかしたいものだ。

景観グループ



虫だより

◆ 花班の活動

山中 笙子

ならやまの春を咲かせ、つなげていった花たち。コロナ禍により、イチハツや矢車菊、ジャーマンアイリスの開花時に合えず、「春」が抜け落ちたような気分でした。花たちをほうっておくこともできず、自己判断で活動に参加しました。新しいメンバーが増え、アジサイやシャガの柵作りを経験され、共に楽しみながらの作業は早く片付きます。

花班では、午前中に時々休憩時間を持つことがあります(もぐもぐタイム)。連絡事項や水分補給、おやつで次の活動へ元気が出ます。時には簡単な植物の勉強もあります。例えば、植物が赤紫色に変色しているのは、強い太陽の紫外線の害から植物を守っているアントシアニンの色素だと。また5月、秋の七草・フジバカマの成長が悪く連作障害が疑われ隣の地に移植することに。土を軟らかく耕し炭を入れ、石灰を撒き、腐葉土もたっぷり混ぜ水やりをしました。勉強と作業がつながると解りやすいですね。

長い梅雨には、ナデシコや千日紅を植えました。この頃にはヒオウギスイセンやヤブカンゾウ、キキョウが咲き、花色の鮮やかさにしばらく眺めました。花たちにとってはコロナなんて関係ないようです。

コロナに加えて猛暑に見舞われ、熱中症を避け涼しい日陰を探しての作業です。日当たりが良すぎる山野草園では、高く伸びた雑草群に覆われ何も見えず、移植したフジバカマの様子も分かりません。助けてあげたいけれど、「ご免、花より団子ではなく、人の命なのよ」と我慢してもらっています。今年の開花は無理でしょうね。仲間のヒヨドリバナは蕾、間もなく咲く花は白く芳香はありませんが。



◆昆虫の英語名(1)

菊川 年明

セセリチョウ

セセリチョウという小型で地味なチョウのグループ(科)がある。胴はガのように太いので、よくガと間違えられる。とりわけ特徴的なのはその飛び方で、つぶてのように一直線に敏捷に飛ぶ。チョウの英語名は一般的にはバタフライであるがセセリチョウ類だけはスキッパー(skipper)と呼ばれている。弾むような飛び方に由来する。和名は口



吻で花をせせるところから。(写真はイチモンジセセリ)

アメンボ

アメンボ類は水面上をすいすいと走る。脚に毛があり水をはじくので水面に浮かんでいられるのである。英語名はポンドスケーター(pond skater)で、スケートをする人に見立てている。



和名は飴のような匂いがする棒のような虫という意味らしい。(写真はナミアメンボ)

シリアゲムシ

シリアゲムシ(類)という名前はオスだけではあるが複端(尻)を背中側に持ち上げていることによる。英語名はスコピオンフライ(scorpion fly)で、サソリ虫(羽のある虫)ということになるだろうか。サソリになぞらえた名付けである。サソリを思わせる恐ろしげな姿をして



ているが、刺したり、噛んだりする昆虫ではない。(写真はヤマトシリアゲムシ)

要注意 サクラの害虫

「クビアカツヤカミキリ」説明会に参加して

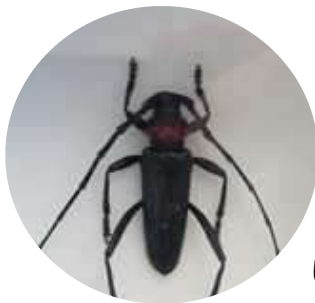
石田 隆久

9月8日(火)サクラの名所の佐保川小学校南門前集合でサクラの害虫に関する説明会があり、家のすぐ南側なので参加した。参加者は30人ほどで「奈良・人と自然の会」は会長を含めて7人である。県庁職員2人、樹木医が4人である。



県庁職員による集合場所での説明

大阪ではサクラの害虫「クビアカツヤカミキリ」の害が発生しているが奈良でも大いに警戒しなくてはならない。



「クビアカツヤカミキリ」の成虫

体長は2.5～4cm 全体に光沢のある黒色で胸部が赤い。活動期は5月末～8月末。

サクラの名所「佐保川」では北南の岸辺に280本のサクラがある。樹齢もかなりの古木が多いので注意が必要である。



北南の2班に分かれて、古木を中心に観察、ラベルを貼る。

南北岸のサクラの点検を終え、佐保川小学校で「まとめ」が。



今日は「クビアカツヤカミキリ」の成虫も、幼虫もフラスもおかげさまで確認されなかった。



幼虫



幼虫が出すフラス

フラスとは幼虫のフンと木くずが混ざったものである。

9月末まで二週間に一回ほど280本のラベルのあるサクラを観察確認の必要がある。今年はまだ時期が過ぎつつあるが、来年が心配である。来年は4月末から9月末まで観察確認が必要である。害虫の活動時間は午前中とのことなので、近くに住む僕も来年は忘れないようにしたい。被害を拡大させないために、成虫、フラスを見かけたら駆除と情報提供が必要である。また、サクラだけでなく、ウメ、モモも要注意である。



私のふるさと

坪井 都子

私の故郷（ふるさと）は「岡山」です。

岡山は本当に住みやすい所です。実家は岡山駅から西へ歩いて15分、交通も至便の位置。市の郊外にあたる場所、静かで生活も便利です。残念なのは1時間近く電車や車に乗らないと、豊かな大自然の場所に出会えないこと。

岡山は「晴れの国」と言われるように、雨が少なく温暖な瀬戸内気候の場所。だからイグサの産地としても有名で、マスカットや桃も名産品です。いい土が取れるので、備前焼も自慢の焼き物です。そこには岡山藩主・池田光政によって創設された庶民教育のための学校「旧閑谷学校」もあります。

北は中国山地、南は瀬戸内海に面し、自然災害とも無縁の地だと思っていました。2年前、倉敷の真備地区一帯の大洪水は驚きそのものでした。今も災害復興は半ばです。



↑ 備前焼

私は歴史話が好きなもので、岡山の古（いにしえ）を中心に目を向けたいと思います。

旧石器時代（約2.5万年前）から人々は居住していたことが、鷲羽山遺跡等から伺えます。古代には「吉備国」と言われ、畿内地域・北九州地域・出雲地域と共に、日本列島の中心地の一つとして栄えました。優れた鉄製技術を持ち、その支配地域は強大で広範囲だったと推定されます。6世紀前半には大和朝廷に臣従します。

近世には宇喜多家から小早川家、そして池田家が藩政を担いました。池田光政は三代目です。明治4年「廃藩置県」により、備前・備中・美作（みまさか）の範囲が岡山県となりました。

《おかやま桃太郎伝説》から

私たちがよく知っている昔話の「桃太郎」の話の原型になったと言われる「桃太郎伝説」には、全く違う桃太郎と鬼の姿が描かれています。

伝説に隠された桃太郎と鬼の本当の関係とは？
「いにしえに吉備と呼ばれた岡山。この地には『鬼ノ城（きのじょう）』と呼ばれる古代山城や巨石等の遺跡が現存する。
↓ 鬼ノ城

絶壁にそびえる古代山城は鬼とされた『温羅（うら）』の居城である。激戦（桃太郎の鬼退治）の末、勝利した大和の皇子・イサセリヒコ（桃太郎）は巨大神殿に祀られ、敗れた温羅の首はその側に埋められている。」



（岡山市産業観光局推進課資料から）

“実は「温羅」は百済の国の王子だったが、隣国との戦いに敗れ、供の者たちとこの国に逃れてきて、船で吉備の穴海（今の児島湾）に流れ着いた。しかし漁師たちから鬼と間違われ暴力を振るわれ、仕方なく山に逃げ込んで新山の頂に住まいを構えた。新山の麓に阿曾の里という小さな村がある。熊に襲われそうになった村の少年・阿曾男を温羅が助けた。少年は土産に里の食べ物をもって温羅に会いに行くと、温羅はお返しに自分の作った鉄製の鍬（くわ）や鋤（すき）、鋤（もり）などの農具や漁具を持たせた。初め嫌がっていた村人も使ってみて、性能の良さに喜んだ。温羅は阿曾男の姉・阿曾媛と結婚するまでになった。

数年後、阿曾男からこの話を聞いた桃太郎は「鬼退治」をした自分を激しく責めた。夢枕に立つ温羅と約束した。温羅は竈（かまど）で世の吉凶を知らせることを、桃太郎は吉備津彦と名乗り吉備の人々のために尽くすことを。”

鬼退治伝説は「古代吉備の繁栄と屈服の歴史」を背景とし、桃太郎伝説の原型になりました。吉備の多様な遺産は今も訪れる人々を神秘的な物語へと誘ってくれます。故郷の豊かな歴史に触れ、また故郷の味わいを実感しています。

Gallery ならやま



▲油彩「電話」 永井 幸次

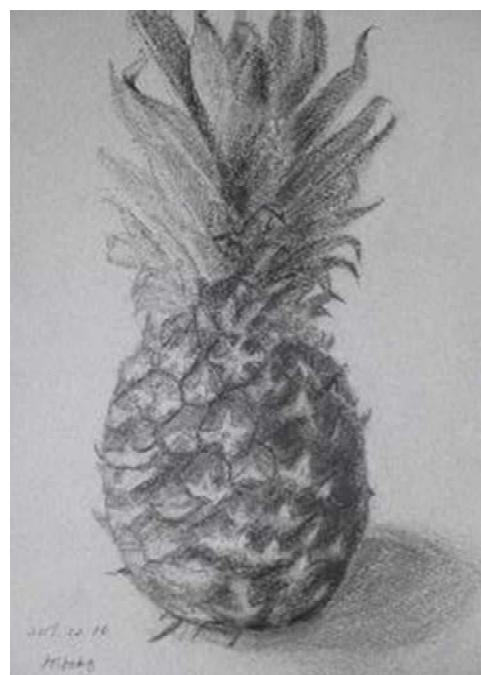


▲写真「大杉谷の滝」 中井 弘



▲クラフト「テントウ（転倒）帽子」
漢国神社祈願済み 増田 典男

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。



▲スケッチ「パイナップル」 吉川 公子



まさかの百歳時代

岡田 安弘

この世は思いもよらぬ事に満ちている。「人生百歳時代」も一例だ。20年学び、40年働く。「残る20年は楽しむ」と目論む。ところが、さらに20年も寿命が延びるかもしれない。どうする? 「百まで生きる覚悟」と題した講演会があるのを知った。新型コロナウイルスが飛来する前のことだ。

講師の春日キスヨ・元松山大教授(臨床社会学)が冒頭に尋ねた。「人類が経験したことのない百歳時代が迫っている。皆さんは何歳まで生きますか?」。高齢者集会の度に質問するそうだ。多くは「考えてない」と言う。要するに成り行き任せ。正直な反応だと思う。

一人の男性が「80の前半でオサラバしたい」と発言した。講師は「10年先かもしれないのですよ。身じまいには発想の転換が必要です」と諭す。

「身じまい」。語感の清々しさが心に残る。老い支度の「終活」は騒がしい気がする。葬儀社の宣伝文句にも使われている。ヨガの精神の「断捨離」は欧州でも流行しているが、やはり日本人には「身じまい」が似合う。文化の香りがする。健康に感謝する気にもなる。

何故か、小樽の酒亭の女将、末岡睦(むつみ)さんの顔が浮かんだ。平成最後の4月30日、93年の生涯を閉じた。小樽運河埋め立ての反対運動で先頭に立つ。社会派女将で知られた。日本山岳会の最高齢会員。俳人でもある。

全日本スキー選手権・少年の部優勝。出場予定の札幌五輪は戦争激化で中止。70歳まではマッキンレーなどの高峰に何回も挑む。80歳を過ぎてマッターホルンをスキーで滑り降りた。

友人が北海道勤務以来、女将と交流を続けてきた。彼が出演する合唱コンサートを聴くために京都に来られた時、紹介を受ける。

小柄な90歳。考えがあつてのことだろう、独り暮らし。髪型も装いも飾り気はない。それでいて、きらめくような雰囲気を持ち主だ。終演後、居酒屋で談笑に付き合ってもらった。長女が気遣って「京都まで同行しようか」と言うので「お節介はよしなさい」と叱ったそうだ。

久しぶりに長女が小樽を訪問。母は床に伏していた。「高窓を拭くために乗った椅子から落ちた」と言う。ほどなく急死。「元気すぎるのも考え物だね」。友人は悔しそうに話した。葬儀を終えた長女からの電話で、椅子から転落は作り話、実は腹膜腫瘍と知る。

元気すぎが悪い訳ではない。そこが難しいと講演で学んだ。避けがたい事なのだ。今や少子化、シングル志向。講師は「家庭の姿が変わった。子供とその連れ合いは半ば他人」と言い切る。かつて家族が担っていた役割を誰がするのか。「それは皆さんです」と会場を指さす。「寿命観も家族観も変えてください。時代の変化を自覚して身じまいを始めてほしい」と講演を締めくくる。

手元にメモがある。「食事と運動の次に大切なのは、日課を予定どおり果たすこと。積極的に人と交流し役割を持つこと」と書いている。

予想もしなかった超の付く長生き時代。身じまいは、片付けることではない。誰かが何とかしてくれる事でもない。暮らしの再設計が否応なしに迫っている。「元気なうちに軌道修正できるようにしてください」。講師の言葉が頭から離れない。

飛沫警戒

小生、80歳になってヘルペスで脇腹に水膨れ。感染症だ。医師いわく、免疫力の衰えですな。コロナウイルスの飛沫警戒心、いや増す。

▽

▽

『疲労つもりで引き出ししヘルペスなりといふ 八十年生きたら そりゃあなた』(斎藤史)。明治の歌人に慰められる。

ならやまプロジェクト

明るく 楽しく 無理をせず

活動日： 毎週木曜日 9:00~15:00

(前日水曜日、19時前のNHKTV天気予報にて午前中の降雨確率

60%以上の場合は翌金曜日、木曜日の同予報も同様であれば金曜日中止)

場 所： 奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約16haの里山林地

アクセス： JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分

または、奈良交通バス亭「佐保台西口」又は「平城大橋」から徒歩7分

携行品など： 弁当、飲み物、軍手(作業用具は現地で用意)お椀、コップなど

お問い合わせ： 富井



10月の活動について

1日： 協働活動日・水路改修工事周辺整備・アダプトプログラム

22日： 佐保台小学校5年生稲刈り(予備日10/29)

24日(土)： 芋掘りイベント(予備日10/31)

29日： 備品点検日・佐保台小学校5年生稲の脱穀

10月 各グループ活動予定

グループ	活 動 予 定
里 山	下草刈り／里山林内の整理／(水路改修)／マキ割り／佐保自然の森竹林検地 ユート：バカ松茸整備地区笹刈り、佐保自然の森整備手伝い、水路改修手伝い
エコファーム	葉野菜類種蒔き／ハウレンソウ、水菜、チンゲン菜／里芋の追肥やり 芋ほり(部分的)／大根類(YR、丸、紅心)土寄せ、／追肥やり 唐辛子類の撤収、畑整備／佐保台小稲刈り稲架掛け用準備／水田の除草、畦の 除草／佐保台小芋ほり準備、株上げ、区画作り／豆類の種蒔き、エンドウ、スナ ップ、そら豆／カボチャの撤収と畑整備
景 観	整備：彩りの森・ベースキャンプ周辺・実りの森草刈り／ミツバチの周辺 草刈り／佐保自然の森竹林整備 ビオ：西池水生生物調査／池、水路補修整備 花班：道沿の花畑の草引き／葉牡丹用畑の整備と苗移植／春花の種まき 西入口花壇の草引き／葉牡丹施肥・花生姜剪定／山野草園草引き
パトロール	水路改修工事／観察路整備、笹草刈り／丸太階段補修、安全ロープ／展望 広場整備準備／コース：4. 1. 2. 3. 4
果 樹	実りの森の除草／クリ・イチジクの収穫／器具収納小屋建設

行事案内



【山もり・てんこ森】イベント

～山・川・海の恵みを未来へ～

芋ほりイベント

富井 忠雄

秋の実り、お芋を掘ろう！

千載 輝重

猛暑が過ぎ、ようやく秋が感じられる気持ちのいい季節になりました。コロナ禍に加えて酷暑と天候不順でなかなか活動がままならない中で、エコグループの頑張りによって、拡張された芋畑には大きく育った芋たちが早く掘り出してくれといわんばかりです。With コロナ下での対策は不可欠ではありますが、恒例の芋ほりイベントは子供たちも楽しみにしていることでもあり、内容を縮小して下記のとおり開催いたします。

実りに感謝し、少しでも秋を実感できるイベントにしたいと思いますので、皆さまのご協力をお願いいたします。

1. 日時：10月24日(土) 10時～12時
※雨天(前日 19 時前の降雨確率 50%以上)の場合は、翌週 31 日(土)に順延
2. 場所：ならやまベースキャンプ、
エコファーム、
3. 参加者：子どもたちと保護者
4. 内容：芋ほり
芋についてのお話、里山についてのお話
5. 持ち物：軍手、スコップ、飲み物
6. 服装：運動靴・長袖・長ズボン、
7. コロナ対策：マスク着用、体温チェック

ソーシャルディスタンスの確保

対面での大声での会話禁止

担当幹事：田矢・田中善・千載



平成 26 年 11 月に奈良県で開催されました「第 34 回全国豊かな海づくり大会～やまと～」の基本理念を継承し、「山と川の恵みに感謝する気持ち」を県民の皆さまに持ち続けてもらうことを目的として、毎年各地で普及啓発イベントを開催しています。今年は新型コロナウイルスの影響で 7 月 19 日から 10 月 18 日に延期になりました。

当会も子供たちを対象とした自然工作のブンブンゴマの作成などで参加します。

1. 主催：「全国豊かな海づくり大会」イベント実行委員会事務局(0742-27-7612)
 2. 日時：10月18日(日) 10:00～15:00
 3. 会場：奈良県森林技術センター(高市郡高取町吉備1)
 4. 内容：竹材使用ブンブンゴマ工作指導 50 個
- * 当日自家用車何台かで現地に行きます。スタッフは、コロナ対策をして参加をお願いします。担当幹事：富江・戸田・富井



11月ならやま活動&行事予告

- * ならやま活動(木)
 - 5日 協働活動日・アダプトプログラム
 - 26日 新蕎麦祭り(?)
- * 月例研修会
 - 2日(月)みたらい溪谷 中止
- * 自然教室
 - 25日(水)秋の奈良公園 紅葉狩り 中止

2020年9月度幹事会報告

日時：8月25日(火) 14:00～16:00

場所：奈良市中部公民館 4F 第2講座室

参加者 17名、欠席者 4名

I 会計、総務部より

1. 会員動向：174名変化なし

森林環境教育指導者講習会の紹介、10月10日より5回あり希望者は各自申し込みを。

2. 会計報告：特に問題なし。

II 活動・行事関係・懸案・確認事項

1. 3か月活動予定

山もり・てんこ森(10/18)芋ほり(10/24)

佐保台小稲刈りおよび脱穀(10/22,29)

月例研修会(11/2)は中止

2. ならやまプロジェクト

・9/17から全日活動

・数珠玉地域はパトロールGが管理する

・水路改修工事への協力依頼

・8/26～9/上まで自転車道舗装工事

III 企画、助成金事業案件

1. 20周年記念事業

・コロナ禍もあり記念式典は先送り。

・里山研修会は、里山再生への取り組みの現状と今後について考え方を整理したうえで、講師の講話をいただくことで検討中。

2. 各種助成金・交付金事業について

・助成金に対する実施計画は遅れがち。実行責任者を再確認のうえ問題を整理してみんなの協力を仰ぐ

・活動参加者 80 数名のマンパワーの活動実態を把握する。各 G 日報での参加人数を正確に。

IV 喫緊・提案事項

・熱中症情報による活動中止はルール化しないが、3役の判断で中止することがある。

活動中はお互いに注意し一人で活動しない。

次回 10 月度幹事会は 9 月 29 日(火)

奈良市中部公民館にて 14:00～で予定

以上



<「水回り」について>

「水に流す」、「湯水のように」などという言葉は日常使いますが、日本が昔から水が豊かな国だったことを教えてください。海に囲まれ、国内に流れている川が約3万5千本あります。そして四季がある。梅雨があり、台風がやってきます。

ところで、トイレのことを、古風な言葉で「厠(かわや)」と呼びます。この言葉は、「川屋」からきているといわれます。つまり、川の上に掛けて作った屋で、そのまま排泄物を流してしまう。いわゆる昔の水洗便所です。

外国人が驚く日本の技術の筆頭格といえば、温水洗浄便座があります。元々はアメリカで製造されていた医療用の温水洗浄便座を、日本人向けに TOTO(株)が開発し、1980年代に販売し、急速に普及したのです。一般に使われているウォシュレットという言葉は、TOTO(株)の登録商標なのです。

温水洗浄便座が日本で発展した理由は、国民の清潔好きな性格もありますが、なにより清潔な水がふんだんに使える環境にあることも大きなことだったでしょう。

また、私が若い頃に胸をときめかして見たヨーロッパの映画で、気が付くことがあります。美しい女優が泡でいっぱいのバスタブに、優雅につかる場面があります。そしてバスタブから出てくると、そのままバスローブに身を包みます。つまり、シャワーを浴びないのです。やはり、水を豊かに使えないことが大きく影響しているようです。

今後もバランスの良い自然を大切に、優れた水環境の循環システムを維持し利用したいものです。

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：薪割り

里山の恵みを大切に利用しよう